ICT ニュース 2025/8 月号

2025/8/19 発行　ICT/感染管理委員会

猛暑が続いていますが皆さん体調管理はできていますか？
熱中症による救急搬送が増えていますが、この時期は半袖やサンダルなど、体が露出した服装で外で遊ぶことが増えていると思います。そうした際に気をつけて欲しいのが、土の中にある「破傷風菌」が傷口から入り込むことで感染する「破傷風」です。その予防に接種するワクチンが現在限定出荷となっており、接種できない場合もあるため気をつける必要があります。

●破傷風とは

破傷風は土壌に広く生息する破傷風菌による感染症ですが、動物の腸の中や糞にも存在します。
破傷風菌は強力な神経毒素を産生し、感染してから一週間後くらいに菌の毒素によって神経の抑制系が侵されて発症し、中枢神経を侵し命に関わる症状を引き起こします。

破傷風の症状

初期症状は
・口が開かない、
・首筋が突っ張る、
・飲食物を飲み込みにくい
などです

やがて全身けいれん、後ろ向きに体がそる
後弓反張などが起こり、
呼吸困難を伴って生命にかかわるようになります。

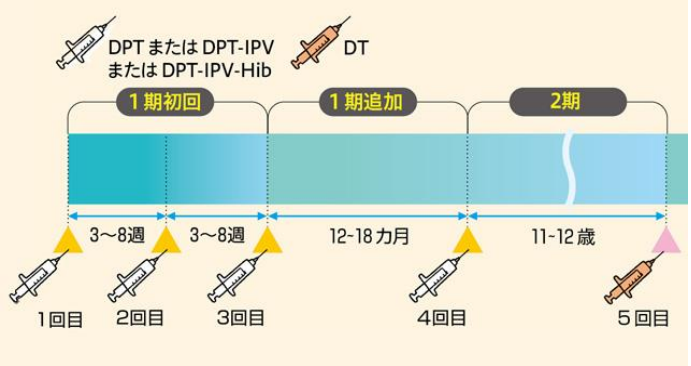
治療

発症後数日以内に非常に危険な状態になるため、入院が必要となります。
破傷風治療に用いるお薬（抗破傷風人免疫グロブリン）は発病初期に効果が発揮されるため、早めの治療開始が求められます。
治療の経過が良好であっても、すべての症状が消えるまでには数ヵ月を要します。

予防対策

破傷風の感染を防ぐには、なによりも予防接種が大切であり、下記のスケジュールで予防接種を受け、その後も定期的に追加接種をすることが望ましいとされています。

予防接種スケジュール



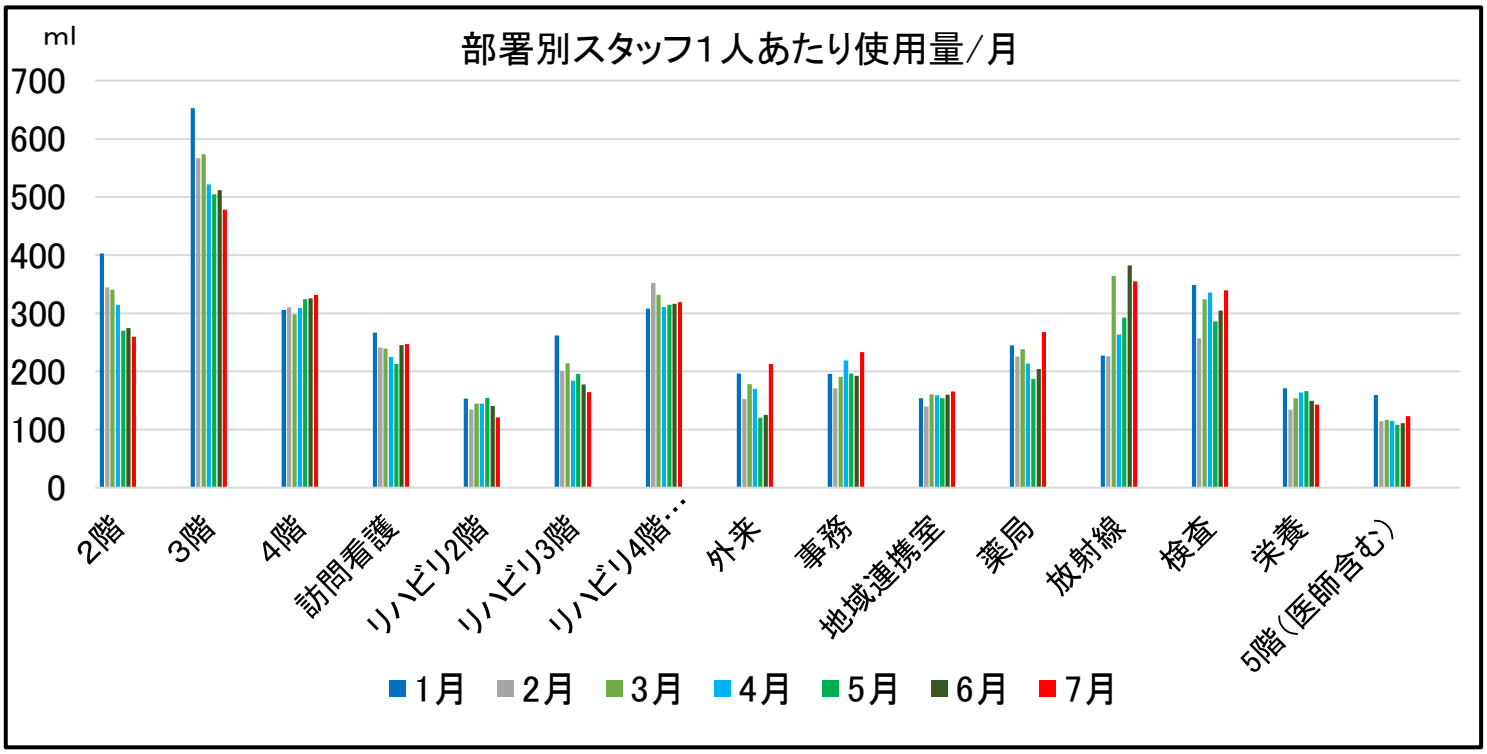
1 期：初回接種　生後 3 ヵ月～12 ヵ月の期間に 20～56 日までの間隔をおいて 3 回の接種
追加接種　初回接種から 6 ヵ月の間隔をおいて接種
2 期：11～12 歳の期間に 1 回接種

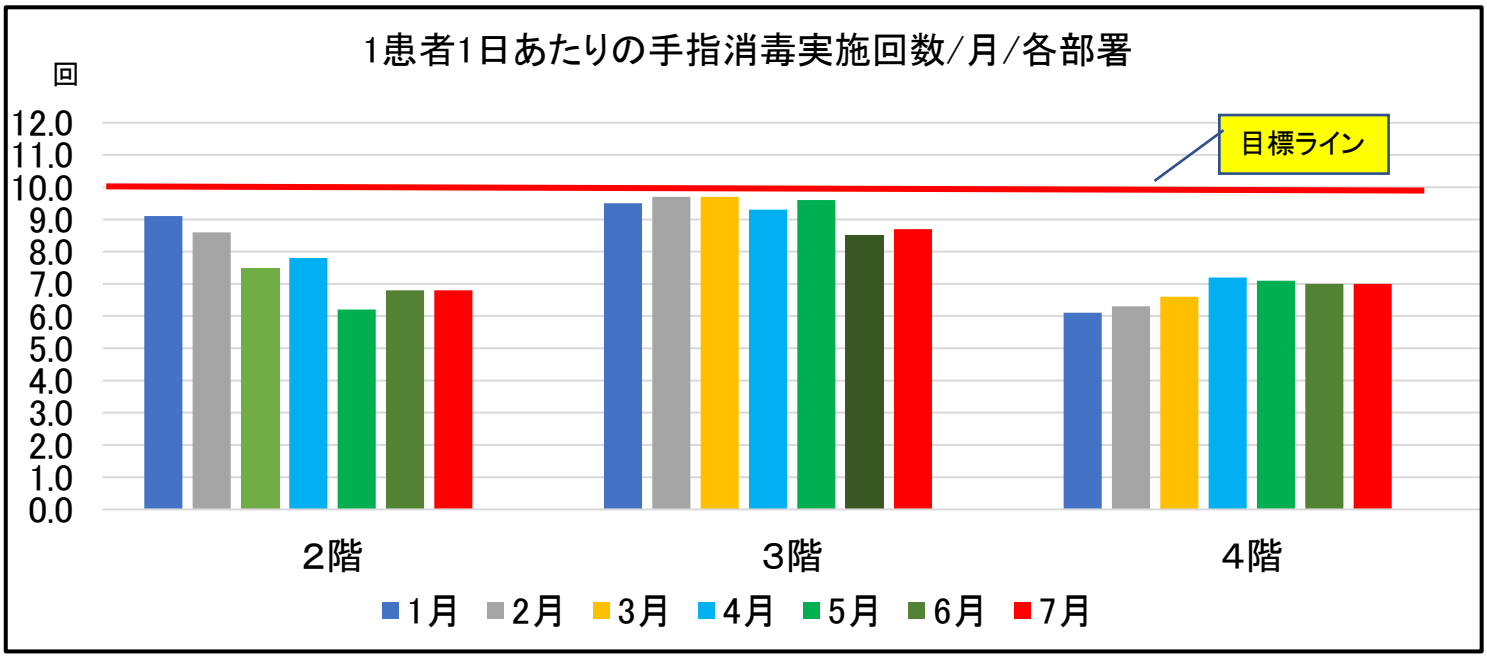
DPT:ジフテリア・百日咳・破傷風混合ワクチン
DPT-IPV:ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ混合ワクチン
DPT-IPV-Hib:ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ・ヒブ感染症混合ワクチン
DT:ジフテリア・破傷風混合ワクチン

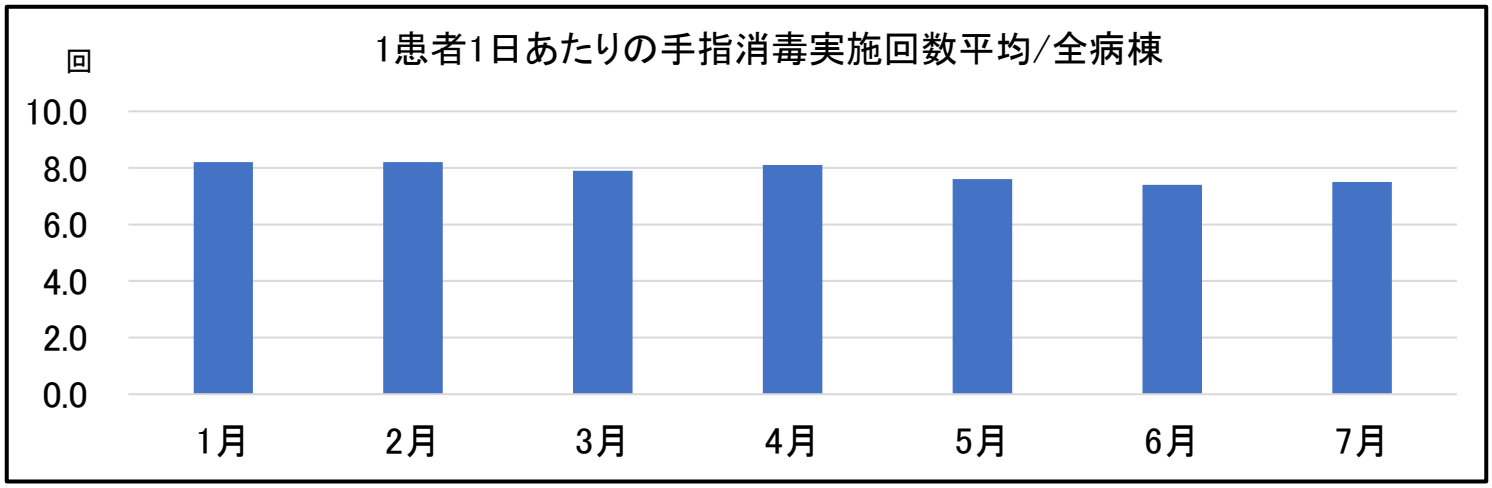
受傷後の処置

創傷部位の迅速・十分な洗浄、汚染もしくは死滅した皮膚・軟部組織の切除、必要に応じた破傷風ワクチン投与による感染予防などの適切な処置をします。スケジュール通りの予防接種終了後 10 年以内または追加接種後 10 年以内の場合は、創傷に関わらず基本的に予防は不要です
スケジュール通りの予防接種終了後 10 年超経過後は、低リスクであればワクチンを受傷後 1 回接種、高リスク時は追加で発症予防として抗破傷風人免疫グロブリン**投与を考慮する。
スケジュール通りのワクチン接種未完成または不明時は、低リスクであればワクチンを受傷直後と 1 ヵ月後、6 ヵ月以降の 3 回投与する。高リスク時は追加で発症予防として抗破傷風人免疫グロブリン**を投与する。
＊低リスク創傷:きれいまたは小さい傷の場合
＊高リスク創傷:上記以外の全ての創傷

★2025 年アルコール手指消毒剤使用量







★病棟以外の部署は使用量が増加傾向にありますが、病棟職員の使用量にばらつきがあり、なかなか増加しません。今後も引き続きタイミング良く手指衛生を心がけてください